

ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿 (HRS鈴鹿) 2023年度Formula Classスカラシッポ最終選考会のご報告

拝啓 晩秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿 (HRS鈴鹿)」では、2023年度「Formula Classスカラシッポ選考会」の最終カリキュラムを11月28日(火)・29日(水)に行いました。「アドバンスコース」より選抜した4名を対象とし、実戦デビューを照準においたプログラム「スカラシッポ選考会」も今回をもって全2回・延べ4日間(コース使用合計16時間)に及ぶ全行程を無事終了することができました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、ここに開催のご報告をさせていただきます。

今後もHRS鈴鹿は世界に通用するドライバーの育成を目標に活動を続けて参ります。引き続きご理解・ご協力賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

2023年11月

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2023年度ホンダ・レーシング・スクール鈴鹿 (HRS鈴鹿)

Formula Classスカラシッポ選考会 最終カリキュラム 開催概要

- 日時： 2023年11月28日(火)・29日(水)
- 概要： 11月28日(火) フリー走行・計測走行/セット走行 第1ヒート・第2ヒート(各6周)
11月29日(水) フリー走行・計測走行/セット走行 第1ヒート・第2ヒート・第3ヒート(各6周)
スカラシッポ獲得者発表会
- 参加： Principal/佐藤琢磨氏
Vice Principal/中野信治氏
Director/佐藤浩二氏
Instructor/加藤寛規氏・野尻智紀氏・大津弘樹氏・佐藤蓮氏
Support Driver...野村勇斗選手・森山冬星選手
Physical Coach/鎌田貴氏
Formula Classスカラシッポ候補生 4名/加藤大翔、洞地遼大、山口大耀、新原光太郎



カリキュラム最終日の朝、スクール用フォーミュラカーを囲み、Principal、Vice Principalをはじめ、Instructor陣と最後の集合写真を撮影



現役スーパーフォーミュラ・Super GTドライバーも同時走行 2日間・計5ヒートに及ぶセット走行を含む最終カリキュラム

レーシングシミュレータとフォーミュラEnjoyの実車を使用し、基礎運転技能を確認する「アドバンスコース選考会STEP1」、独自のスクール車両を使用し、フォーミュラカーを操作する基礎技術を審査する「同STEP2」を経て選抜した8名が2023年度の「アドバンスコース」に入校。全6回・延べ12日間（コース使用合計48時間）のカリキュラムを経てさらに選抜した2023年度受講生4名の精鋭が実戦デビューを照準においたプログラム「スカラシップ選考会」へと進出。各回2日間ずつのカリキュラムを行い、今回の11月28日（火）・29日（水）の2日間が2023年度の「HRS鈴鹿Formula Class」を修了する最後の日程となりました。

初日の28日（火）の天候は曇り一時雨。まず30分間ずつのフリー走行を2セッションに渡って行い、各自路面コンディションとマシンの状態を確認しました。その後、15分間による計測走行を実施し、さらに6周によるセット走行を2ヒートに渡って行いました。

この日は4名の候補生に加え、スーパーフォーミュラとSuper GT（GT500クラス）に参戦している大津弘樹氏、スーパーフォーミュラの現役ドライバーである佐藤蓮氏の各Instructorに加え、HRS鈴鹿Formula Classアドバンスの修了生で、「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）」の育成ドライバーとして2023年FIA-F4選手権

に参戦した野村勇斗・森山冬星の両選手が同時走行。また、佐藤琢磨Principal、中野信治Vice Principal、佐藤浩二Director、加藤寛規・野尻智紀の両Instructorがコースサイドやピットモニターで候補生のドライビングを確認。各Instructorには走行後にきめ細かなアドバイスをしていたきました。

計測走行のベストタイムによって決まったグリッドに並んで行ったセット走行第1ヒートでは佐藤（蓮）Instructorがトップチェッカー。それに候補生の山口大輝、森山選手、候補生の洞地遼大、大津Instructor、野村選手、候補生の新原光太郎、加藤大翔と続きました。また、計測走行のセカンドベストタイムによって決まったグリッドに並んで行ったセット走行第2ヒートでは佐藤（蓮）Instructor、山口、大津Instructor、森山選手、洞地、野村選手、加藤、新原のオーダーでチェッカーを受けました。



現役スーパーフォーミュラ・Super GT・FIA-F4ドライバーが参加した最終カリキュラムでは、走行前のミーティングから力が入る



計測走行と3ヒート制のセット走行で 2か月に及んだ「スカラシップ選考会」の成果を発揮

最終日の29日(水)はいよいよスカラシップ獲得者発表の日。身体のウォーミングアップを入念に済ませ、佐藤 Principalと中野 Vice Principalを中心とした集合写真撮影の後、いつものカリキュラム同様、走行前ミーティングを行いました。ここでは佐藤 Principalより「泣いても笑っても最終日です。持てる力の全てを限界まで出し切りたいと思います。やれることは全てやる。スカラシップを獲得するんだという気持ちを出し、悔いのないように走ってください」という言が掛けられました。

そしていよいよ最後の走行トレーニングへ。まずは28日(火)のカリキュラムで使った車両からシャッフルしたマシンに乗り込み、20分間ずつのフリー走行を2セッションに渡って実施。路面コンディションとマシンの状態を確認しながら大津・佐藤の各 Instructorと2名のFIA-F4ドライバー、そして4名の候補生が慎重に走行を開始しました。

その後、ニュータイヤに交換して15分間による計測走行へ。ここでは洞地がトップタイムをマーク。それに新原、野村選手、佐藤(蓮) Instructor、加藤、森山選手、大津 Instructor、山口と続きました。

さらに6周ずつによる3ヒート制のセット走行を行いました。計測走行のベストタイム順にグリッドに並んで行った第1ヒートでは2番グリッドからスタートした新原が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪うと、オープニングラップをその新原、洞地、佐藤(蓮) Instructorのオーダーで終了。2ラップ目に佐藤(蓮) Instructorが洞地をパスして2番手に。新原、佐藤(蓮) Instructor、洞地、野村選手、加藤、大津 Instructor、山口、森山選手のオーダーでチェッカーを受けました。

続いて計測走行のセカンドベストタイム順にグリッドに並んで行った第2ヒートでは2番グリッドからスタートした佐藤(蓮) Instructorがホールショットを奪うと、その佐藤(蓮) Instructor、洞地、野村選手のオーダーでオープニングラップを終了。2ラップ目に野村選手が洞地をパスして2番手に浮上すると、野村選手は佐藤(蓮) Instructorにも接近。しかし、パスするには至らず、佐藤(蓮) Instructor、野村選手、洞地、加藤、大津 Instructor、新原、森山選手、山口のオーダーでチェッカーを受けました。

計測走行のサードベストタイム順にグリッドに並んで行った第3ヒートでもポールポジションスタートの佐藤(蓮) Instructorがホールショットを奪い、そのままトップでオープニングラップを終了。佐藤(蓮) Instructorと野村選手がバトルを展開し、4周目の1コーナーで野村選手が前に。野村選手がトップチェッカーを受けました。

第1ヒートでは候補生の新原の背後で佐藤(蓮) Instructorがプレッシャーを掛けましたが、新原が佐藤(蓮) Instructorを抑えてトップチェッカーを受けました。それ以外のヒートでも候補生が現役スーパーフォーミュラ・Super GT・FIA-F4ドライバーに挑む果敢な走りを披露しました。また、この日の計測走行では洞地が Instructor 勢を凌ぐ2分05秒565をマークしました。

このように候補生たちは「アドバンスコース」と「スカラシップ選考会」のカリキュラムで身に付けた技術を余すところなく発揮。今年度の卒業生たちが近い将来、上位レースにて先輩ドライバーを打ち負かす存在となることを期待させるセット走行となりました。



集団の中でのポジション取りを序盤から意識して走行するため、6周のセット走行を3ヒートに渡って実施

TAICHI

Arai
HELMET

EAR PEACE

EIKO
Glory of Karting

HRC
HONDA RACING

ENKEI

ENDLESS
Challenge to the Future

EXGEL
HYPER SPORT

FRIBRAVIA
HAMAMATSU

Sabell

CCI
CO-OPERATION

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

sparco

DUNLOP

ThreeBond

三菱

IGNY/KARL
23 JAN 1988 12C

NGK
SPARK PLUGS

HEPHAIST

BRIDGESTONE

ODYSSEY
EXERCISE EQUIPMENT

PROTEX

PETRONAS

MOTUL

rizoma

RIVAUX
rivaux.com

WAKOS



最終カリキュラムのコースイン直前、いつも以上の緊張感が漂う



摩耗したタイヤでもタイムを落とさないマネジメント方法など、走行を通じて経験値を積み上げていく





年の近い現役トップドライバーとともに走ることで速く走る技術はもちろん、レースへの向き合い方など吸収できる



積極的にアドバイスを求めていく候補生、それにとことん応じるVice Principal



4ステップに及ぶカリキュラムの集大成として モータースポーツの次世代を担うアスリートを発表

レベルの高い競争の中、ドライビングテクニックはもちろん、ルールやマナーの重要性、プロフェッショナルな世界を目指す厳しさをも教えるべく、4ステップのカリキュラムとして進めてきた2023年度の「HRS鈴鹿Formula Class」も今回のカリキュラムをもって全日程が無事終了。その集大成として、この日までの延べ4日間で行った「スカラシップ選考会」での成績をもとにInstructor陣による協議を行い、2023年度のスカラシップ(奨学制度)獲得者を決定。その発表を行いました。

スカラシップ獲得者発表会では、まず株式会社ホンダ・レーシング(HRC)企画管理部レースプロモーションブロックマネージャーの青木武治様より挨拶をいただいた後、佐藤琢磨Principalから優秀な成績を納めた加藤大翔(首席)と洞地遼大(次席)を2023年度のスカラシップ獲得者とする事が発表されました。二人はHondaのドライバー育成プロジェクト「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト(HFDP)」の選出ドライバーとして2024年FIA-F4選手権に参戦する予定です。彼らが、現在世界で活躍する角田裕毅選手(2016年修了)、岩佐歩夢選手(2019年修了)らに続くドライバーとして活躍することが期待されています。

●佐藤琢磨Principalのコメント●

「スカラシップ獲得者の選考にあたっては大変長くお待たせしました。この一年間での4名の成長は著しく、小数点以下の僅差で、選考するのに時間が掛かりました。それほどレベルが高い中で選ばれた二人の今後の成長にはもちろん期待しています。選ばれなかった二人もこれで終わりではなく、ここからが新たなスタートです。これからも頑張ってください。4人とも未来があり、キラキラ輝いています。皆さんがこの場にいられるのには多くの方々サポートがあります。そのことに感謝し、今後もそれぞれの夢や目標に向かって躍進して欲しいと思います」

また、「HRS鈴鹿」ではデータ主導によるスポーツ分野特化型タレントマネジメントシステムを導入。受講生一人ひとりの走行結果はもちろん、トレーニング内容、フィジカル・メンタルの成長記録などの各種データを管理・分析し、各受講生の強みや弱みに合わせた効果的な育成メニューを開発することにより、ドライバー育成環境をさらに充実させます。

さらに、2024年度からは新型教習用フォーミュラカー「HRS-F24」を導入。受講生のステップアップを視野に入れた性能、ドライビングスキル評価のさらなる精度向上を実現した他、FIAの衝突安全基準を上回る安全装備を搭載したこの実践的なフォーミュラマシンにより、さらに充実した学びの機会を提供します。

このようにさらなるカリキュラムの充実を図る「HRS鈴鹿」の今後の活動、そして「HRS鈴鹿」の卒業生たちの活躍にご注目願います。



修了式後の集合撮影



●2023年度 HRS鈴鹿Formula Classスカラシップ獲得者のコメント●

◇首席:加藤大翔(かとうたいと) 16歳/三重県出身

【主な経歴】

- 2020年ROTAX MAX FESTIVAL JrMAXクラス優勝
- 2021年全日本カート選手権FS-125クラス シリーズ2位(2勝)
- 2022年EXGEL OK CHAMP シリーズチャンピオン・全日本カート選手権OKクラス シリーズ7位

【コメント】

『フォーミュラ未経験のままに入校し、最初は思うように走ることができませんでした。しかし、徐々に走ることができるようになり、計測走行では僅差の2番手ということがあったり、前に出ることはできませんでしたがInstructorのすぐ後ろでチェッカーを受けることができました。Instructorの方々のアドバイスのおかげで成長できたと思います。今後のレース活動でも苦勞することは多いと思いますが、その中で自分のベストを尽くします。F1に乗った時にその経験を活かせるよう、毎年厳しい戦いの中で1番を獲っていかうと思っています。そして2027年にはF1ドライバーになることを目標に頑張ります』

◇次席:洞地遼大(ほらちりょうた) 17歳/愛知県出身

【主な経歴】

- 2016年ROTAX MAXグランドファイナル世界選手権3位
- 2018年JAFジュニアカート選手権 シリーズ5位(3勝)
- 2020年全日本カート選手権FS-125クラスシリーズ7位(2勝)
- 2021年全日本カート選手権OKクラス シリーズ3位(1勝)
- 2022年FIA-F4選手権スポット参戦
- 2023年FIA-F4選手権 シリーズ10位

【コメント】

『昨年入校し、今年は2年目のチャンスをいただきました。昨年は苦戦し、あまり成長できませんでしたが、今年は毎回課題を明確にし、改善を目指してきました。その結果、今日は全体のトップタイムを記録できました。首席を獲ることができず、正直悔しいですが、成長を感じることができました。今後も苦しいことがたくさんあると思いますが、それに負けずにさらに成長していきたいです。そして来年からは必ず1番を獲ってF1チャンピオンを目指して頑張っていきます』



2023年度「HRS鈴鹿Formula Class」スカラシップを獲得した(写真左から)加藤大翔、佐藤琢磨Principal、洞地遼大

